

第62号

# 道しるべ



撮影：森 正廣 2019.4.21

## 「SからH、そしてRへ」

この二枚の写真、皆さんはどちらが35年前の兜だと思いますか？

昭和から平成、そして令和・・・

昭和64年1月7日が、昭和最後の日。平成元年1月8日から平成がスタート。  
そして平成31年4月30日が平成最後の日。令和元年5月1日から令和がスタート。  
皆さんが、この道しるべを手をしている時は、令和の時代になっています。

「百姓昭明、協和萬邦」国民の平和及び世界各国の共存繁栄を願うことから、昭和が。  
「内平外成」内外天地とも平和が達成されることを願うことから、平成に。  
そして、記憶に新しい、咲き誇る梅の花のように人々が明日への希望を持ち  
それぞれの花を咲かせたいという思いから、令和と。

大化から始まって248番目の令和、気が遠くなるように続いていますね。  
この元号が使われるのは、世界で日本だけのようであります。元号と西暦両方使うのは、  
「面倒だあ！」と思ってしまうのですが、これも日本の文化と思ったら親しみを感じますね。

我社も、この令和のように皆さんがもっともっと希望の持てる、そして楽しみのある、  
魅力ある企業にして行きたいと考えます。

さて、冒頭の答えですが左側の兜が35年前のものです。  
今の、長男が生まれて翌年初節句に、両親に買ってもらったものです。  
そして、右側は今年、私たち夫婦が孫に買ったものです。  
昭和・平成・令和、時代の流れを感じます。  
いつの時代も、子供、孫には、ただただ健やかに育ってくれることを祈念します。



令和元年 5月 森 正廣



# ミスをするから確認を

「人生において一度も忘れ物をしたことがない」と断言できる人は、おそらくいないでしょう。一方で、「忘れ物」になる前に確認をしたことで「忘れ物」を発見できて、事なきを得た経験は誰にもあるでしょう。「忘れ物というミスをしなない人はいません」

結果的に、忘れ物というミスをしていない人は確認をしています。言い換えると「人は確認をしなければ必ずミスをする状態」にあると言えます。安全においても「見る」と「確認する」の違いにより、安全の結果に違いが生じます。見るとは、ただ見えている範囲のものを見ているだけの状態。確認するとは、見えるものの中で危ないものを探しつつ、見えていないものは予測をして対処すること。

横断歩道上に歩いている人がいないかを「見る」と、横断歩道上はもちろんのこと、予測により視野を広げて、横断歩道を渡ろうとする人がいないかを「確認する」ことの違いです。ドライバーが走行中に指差呼称等による確認をすることで、停まろうとします。停まろうとすることにより減速ができています。安全を確認してから動き出そうとすることで、次の動作までの秒数を稼ぐことができます。



確認にいつもよりも一秒多く時間を掛けるだけで、正しく判断できる時間を稼ぎ、動作や操作のミスを防止することができます。

例えば、先頭位置での信号待ちの状態から発進する際にも、確認により発進を遅らせて他車を先に動かすことで、横断歩道上に残っている人と接触する事故の第一当事者になるリスクを軽減できます。



バック事故発生時の検証においては「接触の対象物（屋根や駐車車両や柱など）の存在を確認により認識していたか？」を確認しましょう。

「降車確認」等により認識できていれば、多くのバック事故を回避できたはずですが、ちなみにバック事故の対象物の多くは「動かないもの」です。

ドライバーが確認により対象物を認識していれば、多くのバック事故は回避できる状態にあると言えます。

また、認識していれば「ゆっくり接近」しようとするために、事故発生時にも事故の被害を小さくすることができます。

さらには、見えるものを見るのは「気付く」の行為であり、見えないものも見えるようにする努力が「確認」の行動です。

「見えている範囲のみを見る」と、バック時の降車確認や交差点通過時の首や上半身を動かす確認をすることで「見える範囲を広げる確認」。

「見る」と「確認」のやり方の違いを発信しましょう。

「見る」と「確認」の違いは、新聞や本を「見る」と「読む」とのやり方の違いにも似ています。

同じく文字や数字が記載された伝票は、「見る」のではなく「読む」ことで、間違いがないかを確認できます。安全も「危険を先読みする」ことで、判断や行動の時間を稼ぐことができ、危険への対処により無事故の期間を長くすることができます。